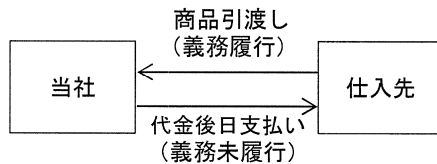


補助レジュメ：No.4 - 5

◎ F/S の構成要素が認識される契機 (P241、P157 参照)

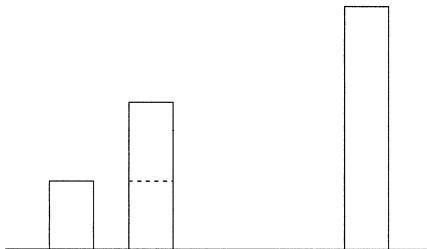
財務諸表の構成要素の定義を充足した各種項目の認識は、基礎となる契約の原則として少なくとも一方の履行が契機となる。



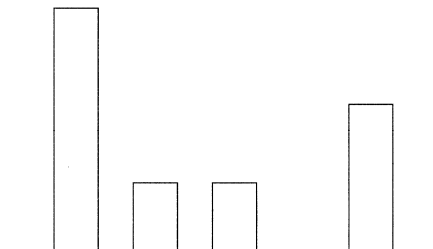
左記の取引では、少なくとも仕入先は義務履行を行っているため、構成要素が認識される。

◎ 引当金処理と両建処理

(1) 引当金処理



(2) 両建処理



◎ 除去費用の取扱いの考え方

除去費用を原価算入

↓

投資の回収額の引き上げを意味する

↓ これにより…

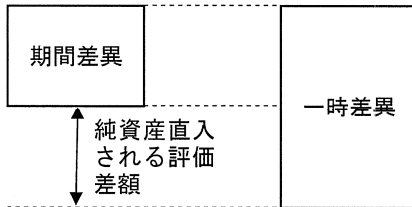
- ① 除去費用を含めた費用配分が可能になり、収益・費用の対応が可能になる
- ② 資産効率の観点からも有用と考えられる情報を提供することが可能になる

補助レジュメ：No.4 - 5

ex) 商品評価損 10 が損金不算入である（翌期に差異は解消する）

	(1) 第1期 40%	(2) 第2期 30%
	〔繰延法〕	〔資負法〕
税引前	100	100
法人税		
調整額		

◎ 一時差異と期間差異の関係

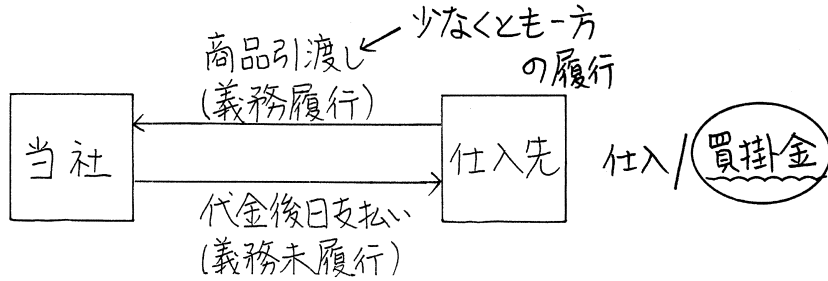


税 理 士 講 義 録	コース講義等	基礎マスター	科目	財務諸表論	回数	テキストNo.4 第5回
-------------	--------	--------	----	-------	----	-----------------

配布物	★テスト類： []	講師	的場 先生
	★その他の配布物1： []		
	★その他の配布物2： []		

黒 板 内 容

① F/Sの構成要素が認識される契機 (P.240)

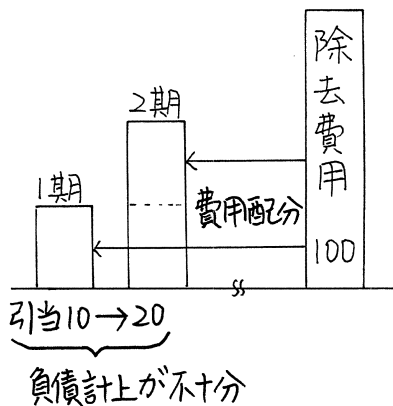


P157

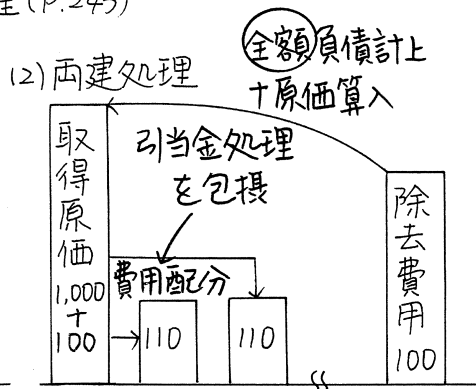
P241

② 引当金処理と両建処理 (P.243)

(1) 引当金処理



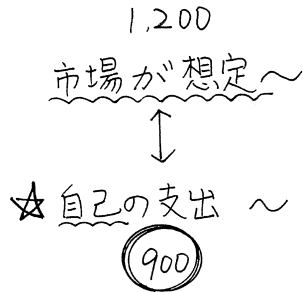
(2) 両建処理



税 理 士 講 義 録	コース講義等	基礎マスター	科目	財務諸表論	回数	テキストNo.4 第5回
-------------	--------	--------	----	-------	----	-----------------

配布物	★テスト類 : []	講師	講 師	的場	先生
	★その他の配布物1 : []				
	★その他の配布物2 : []				

黒 板 内 容



② P.246

・ 除去費用を原価算入

↓

・ 投資の回収額の引上げを意味
 ↓これにより...

① 除去費用を含めた費用配分が可能になり、収益費用の対応が可能

② 資産効率の観点から有用な情報提供が可能

基準の考え方

有形固定資産回転率

$$= \frac{\text{売上高}}{\text{有形固定}}$$

(P/L)

$$= \frac{200}{40} = 5.0$$

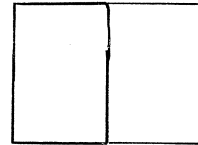
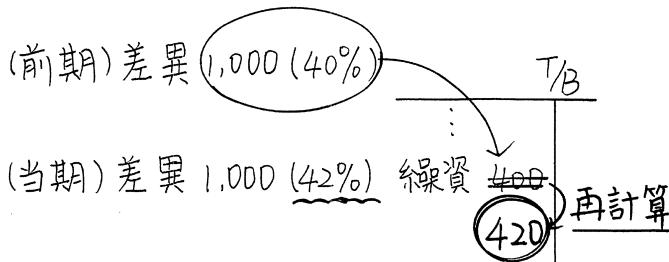
(B/S)

$$= \frac{200}{40+10} = (4.0)$$

税 理 士 講 義 録	コース講義等	基礎マスター	科 目	財務諸表論	回 数	テキストNo.4 第5回

配布物	★テスト類： []	講 師	的 場 所
	★その他の配布物1： []		
	★その他の配布物2： []		
			先生

黒 板 内 容



② P.255

(1) 1期 40% ← 現行税率
[繰上] [資負]

税引前	100		100
法人	44	対	44
調整	△4	△3	41
	60		59

繰上 4 / 法調 4
税引前利益
との対応

繰上 3 / 法調 3
将来税金支払額
に対する影響を表示

(2) 2期 30% ← 将来税率
[資負]

		100
27	←	(100-10) × 30%
+3		30
		70

COFの減額

||

CIFをもたらす